

令和4年度
入学者選抜学力試験問題

前期日程

国語

注 意

1. 解答は別冊の解答用紙の所定の解答欄に書くこと。
2. 文学部志望者はⅠ・Ⅱ・Ⅲを、生活環境学部志望者はⅠ・Ⅱを、解答すること。
3. 文学部志望者は、解答用紙の表紙を含むすべてのページの※印欄に、
生活環境学部志望者は、解答用紙の表紙及び1ページと2ページの※印欄に、
受験番号・氏名を記入すること。
受験番号は、本学受験票の受験番号を記入すること。
※印欄以外の箇所には、受験番号・氏名を絶対に書かないこと。
4. 試験終了後、この問題冊子は持ち帰ること。
5. 総ページ数
問題冊子—11 ページ
(うち白紙—2 ページ)

I つぎの文章について後の問に答えよ。(文学部・生活環境学部)

「情報革命」や・・・

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

問題文は、著作権保護のため掲載しておりません。

を伴っている。

・
・
・
過程

(久保明教『機械カニバリズム——人間なきあとの人類学へ』による)

(注) Oクロード・シャノン——一九一六～二〇〇一。数学者。情報理論の創始者。

OCMC——Computer-Mediated Communication の頭文字を取ったもの。

問一 傍線部 A と E のカタカナを漢字に改めよ。

問二 傍線部 1 について、どのような点が「親和的」と言えるのか、説明せよ。

問三 傍線部 2 はどのようなことを喻えているのか、「火」と「煙」の関係を明らかにしつつ説明せよ。

問四 傍線部 3 について、「YouTube → ようつべ」という「誤字」が「正字を代替する表現」となりうることを、「デジタルな記号」という観点から説明せよ。

問五 傍線部 4 について、「変容していくプロセス」とはどういうことか、本文中の例にそくして説明せよ。

問六 二重傍線部について、

(a) 「機械的な情報」とはどのようなものか、説明せよ。

(b) 「人間的記号」とはどのようなものか、「情報」ではなく「記号」となっていることに留意して説明せよ。

II

つぎの文章は『中務内侍日記』の一節である。病弱でいつもどこか気分の晴れないことが多かった作者の藤原経子が、あるとき宮中の人たちと舟で尼崎（現在の兵庫県東部）を訪れた際の紀行文である。これについて後の問に答えよ。

(文学部・生活環境学部)

晦日に里に出でて、九月四、五日の程に尼崎といふ所に行くに、京を夜深く出でて、鳥羽殿近き程にて夜やうやう明け行く空に、木々の梢も色付き初むる頃なれば、艶ある程にてなかなか面白し。舟に乗らむとするに、数知らず、避りあへぬまで舟多きに、聞き知らぬさまに恐ろしげなる声したる者どもひしめくを聞くにつけても、引きかへたる式もあはれにて、北山殿思ひ出でられて、「いかに」とだに言ひ合はする人もなし。はるばる漕ぎ行くに、河霧立ちて、来し方行先も見えず。禁野交野といふ所過ぐるに、音にのみ聞きわたるをと思ひて、しばし見るに、遠ければ定かにはあらねど、柴野の中より鳥の立つを、「雉にやあらむ」など言へば、

古も ありとばかりは 音に聞く 交野の雉 今日見つるかな

また橋多く過ぎぬるなるに、「これなむ天の川に侍る」と言ふを見れば、橋破れてその形ばかりぞ僅かに残る。

これやこの 棚機つ女の 恋ひわたる 天の河原の 鵜の橋

かくて日の入る程に行き着きぬ。日は水の下に入るとのみ見えて、河より海になるけぢめ、波荒く立ち、遙かなる沖に漕ぐ舟は、絵に画きたらむやうなり。東北の方を見やれば、住吉の松、群立絶え絶えに霞みて見ゆ。立ち来る波風も、浦ならねばや、いたく激しき心地ぞする。昼、貴布禰の浦といふ方に出でて見れば、浦の松風、波に通ひて、入り海心すこく、神さびていと尊し。浜に海人どもの、貝拾ひ、また沖釣するもあり。栲縄、網などいふ、干し置きたるを見れば、干すひまもありけるをと、

A 打ち延へて 苦しき物と 思ひしに 海人の栲縄 干すひまもあり

夕日の影面白きに、沖より海人の釣舟ども多く帰るもあはれなり。暮るれば遊女が舟ども、歌うたひ物数へなどするもをか

し。^b一方ならず都のみ心とまりしに、海山隔たりぬる心細さを思ふに、⁴面影ばかり形見とて、波路遥かに月を眺むるさへ、よそに隈なき影も我からはなほ曇らぬ夜半もなし。

かくて心許なく数へられつる日数も程なくて、上るは、又立ち返りあかぬ心地して、さすが馴れぬる浦風に心はなびくかしと、⁵我ながらあやにくにて思ひ知らるる。来し方も遙かになりぬるも心細く、梢を顧みれども隔たり霞む雲井ばかりを眺めて、

B 来し方を 顧みれども はるばると 霞隔てて そこはかとなし

遅く出でて「明日も日暮れぬべし」と言へば、夜もすがら舟を漕ぐに、二十日の月なれば、更くるままに澄みまさりて面白きに、皆人寝ぬれば、一人起き居て見るに、影も流ると見ゆる月は、なほこそ後れざりけり。よろづを思ひ続けるに、果ては物恐ろしき心地して心細し。

(注) ○里に出でて——実家に戻つて。

○鳥羽殿——京都の南部にあった鳥羽院の離宮。

○引きかへたる式——宮中での生活や舟遊びとはうってかわつた様式。

○北山殿——京都の北山の、かつて舟遊びをしたところ。

○禁野交野——禁猟区であつた現在の大阪東北部にあたるところ。

○栲縄、網——漁業につかう縄と網。

○打ち延へて——絶えず海の中に引つ張られていて。

問一 二重傍線部 a、b、c について、簡潔に現代語訳せよ。

問二 傍線部 1 を現代語訳せよ。

問三 傍線部 2 について、「日は水の下に入る」とはどのような情景か、わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部 3 について、「激しき心地」とはどのようなことか、具体的に説明せよ。

問五 A 歌の「海人の栲縄 干すひまもあり」について、「苦しき物」と対比しつつ、解釈せよ。

問六 傍線部4について、

(a) 「面影ばかり形見とて」を解釈せよ。

(b) 「よそに隈なき影も我からはなほ曇らぬ夜半もなし」とはどういうことか、作者の心情に触れつつ、解釈せよ。

問七 傍線部5について、どのようなことが「あやにくにて思ひ知らるる」というのか、説明せよ。

問八 B歌をわかりやすく現代語訳せよ。

III つぎの文章について後の問に答えよ。ただし、設問の関係で返り点・送りがなを省いた箇所がある。(文学部のみ)

姜肱^{きやうこう}字伯淮、彭城^{ほうじやう}広戚^{こうせき}人^{ひと}。隱居^{いんこ}静処^{じやうこ}。非義^{ひぎ}不行^{ふぎやう}、敬奉^{けいほう}旧老^{きゅうらう}。訓導^{くんどう}後進^{こうしん}。常^{かづ}与小弟^{せうてい}季江^{せいかう}俱行^{くこ}、為盜^り所^の劫^{おびやか}、欲殺^ス其弟^ノ。肱曰^ク、「弟^ハ年稚弱^{ニシテ}、父母^ノ所^{ナリ}矜^{あは}レム。又未^ダ聘娶^セ。願^{ハクハ}自殺^ラ以^テ濟^スニ家弟^ノ。」季江復^タ言曰^ク、「兄^ハ年德^ニ在^リ前^ニ、家之^ノ英俊^{ナリ}。何^カ可^ク害^スレ之^ヲ。不^レ如^ク殺^スレ我^ヲ。乞^{コソ}自^ラ受^ケレ戮^ヲ、以^テ代^ヘニ兄^ノ命^ニ。」二人各^{オノ}争^ハ死^ス於^テ路^ニ。盜^{おさま}戢^メ刃^ヲ曰^ク、「三君^ハ所謂^ニ義士^{ナリト}。」棄^テ物^ヲ而去^ル。肱車^ノ中^ニ尚^リ有^リ数^ニ千^ノ錢^ヲ、在^リ席^ノ下^ニ。盜^レ不^レ見^ル也。使^ム從^者追^{ヒテ}以^テ与^フ之^ヲ。賊^ジ感^ズ之^ニ、亦^タ復^タ不^レ取^ラ。肱^テ以^テ物^ノ已^ニ歷^ニ盜^手、因^{リテ}以^テ付^シ亭長^ニ委^{ネテ}去^ル。

(晋・袁宏『後漢紀』による)

(注) ○姜肱——人名。 ○彭城広戚——地名。 ○敬奉旧老——つつしんで故老に仕える。

○季江——姜肱の末弟の呼び名。 ○稚弱——幼い。 ○聘娶——妻を迎える。

○年德——年齢と徳義。 ○亭長——宿場の長。治安管理などをおこなう役職。

問一 二重傍線部 a、d の文中での読みを、ひらがなのみを用いて示せ。

問二 傍線部 1 をひらがなのみを用いて書き下せ。

問三 傍線部 2 について、「在前」とはどういうことか、説明せよ。

問四 傍線部 3 について、「之」の指すものが分かるようにして現代語訳せよ。

問五 傍線部 4 をひらがなのみを用いて書き下せ。

問六 傍線部 5 について、

(a) 誰が、何を、どうしたのか説明せよ。

(b) このようにした理由を簡潔に説明せよ。

問七 傍線部 6 を現代語訳せよ。